

## —— 講演スタッフ プロフィール ——

## 希望を感じられる社会を、次の世代へ

職場とLGBTというテーマで活動を始めたのは、私自身がレズビアンであり、転職を繰り返し、職場で居心地悪さを抱えていたからです。2012年、海外の情報をインターネットで見て、企業に働きかける方法があると気づき、それならコンサルタントの経験を活かすことができると思い、活動を始めました。「虹色」は世界中でLGBT支援のシンボルとして使われている、性の多様性を祝福する意味がある6色の虹です。「ダイバーシティ」は英語で多様性を指し、多様な人が活躍できる環境をつくることが、組織をより強くするという考え方のことです。ダイバーシティ推進の文脈でLGBTに取り組む企業が増えることで、LGBTも働きやすい職場を増やしていきたい、という願いを込めました。2020年時点で、LGBT施策に取り組む職場は大手企業の4割になりました。しかし、当初の課題が解決しているかといえば、まだまだです。私は今、職場に限らず、LGBTの生きにくさの要因になっている、大本のところを変えたいと思っています。自分は他の人と違う、と気づいた時に、絶望でなく、希望を感じられる社会を次の世代に残すために。共感してくださる方、是非、一緒に変えていきましょう！



理事長・代表

## 村木 真紀

Maki Muraki

1974年茨城県生まれ。社会保険労務士。京都大学総合人間学部卒業。日系大手製造業、外資系コンサルティング会社等を経て現職。LGBTQ当事者としての実感とコンサルタントとしての経験を活かして、LGBTQに関する調査研究、社会教育活動を行っている。関西学院大学非常勤講師、MBSラジオ審議委員。著書「虹色エンジンメーカー～LGBTQ視点が職場と社会を変える～」(小学館新書)



理事

## 有田 伸也

Shinya Arita

1986年奈良県生まれ。近畿大学理学部卒業。ホテル、飲食業界にてマネージメント業務に従事。前職の飲食関連ベンチャー企業で、人事・採用・教育・労務など、人事系の幅広い業務を経験し、現職。心理的安全性の高い職場がもたらすポジティブな影響を自分自身が経験したことから、「心理的安全性の高い事業所の創出」をモットーにLGBTQ施策導入を支援している。大手企業・行政でのLGBTQ施策導入支援実績多数。

前職にて、ちょうど1年目が終わる頃。私は自身のセクシャリティを、ゲイであることをカミングアウトしました。「なんて気持ちが軽く、仕事がスムーズなんだ!」と、自身の状態に驚いたことを記憶しています。

当時、アライの上司がいてくれたお陰で、私はカミングアウトを「する」「しない」の選択肢を持てました。（「できない」ではなく「しない」この違いは大きかったです）私はそこから「する」を、自身の意思で選択しました。職場のLGBT施策において、カミングアウトをする人が増える事は決してゴールではありません。私のゴールは当事者が様々な選択肢を持つことです。「できない」を「できる」制度や環境に変え、そして「する」「しない」「考え中」など、当事者が様々な選択肢を持った上で仕事に取り組める。そんな職場環境を皆さんとつくっていけたらと思います！